

くろしまてんしゅどう
黒島天主堂

じゅうようぶんかざい
重要文化財

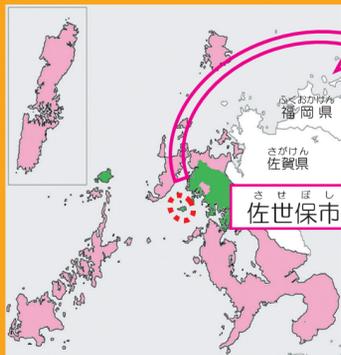


くろしまてんしゅどうは、1902年（明治35年）に佐世保市の黒島に建てられたレンガ造りの教会です。もともと木造の教会でしたが、マルマン神父の設計により建て替えられ、現在の姿になりました。正面の連続アーチと、丸いバラ窓が特徴的です。（右の写真）



バラ窓
（内部から）

ながさきけん
長崎県の地図

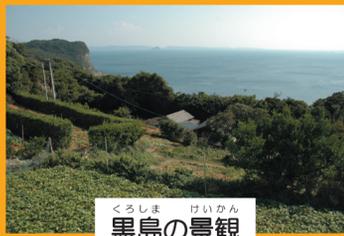


くろしま
黒島の地図



くろしまてんしゅどう
黒島天主堂

くろしま けいかん
黒島の景観



黒島は、佐世保市の西の海上に位置する九十九島の中で最大の島です。平成23年、教会の歴史的価値も含めて、島の全域が国の重要文化的景観（※）になりました。

※文化的景観…人々の生活によって形成された特有の暮らしや環境のこと。

☆**取り組み**☆

現在、黒島天主堂のすぐ横の建物が、「資料館」となっています。教会を訪れた人を案内する窓口としても使われています。



上の写真は、地域の人々が集まって、展示ケースを運んだり、資料を分類したりしているところです。

多くの人によって支えられているんですね☆

せかい い さん
世界遺産ニュース

No.17 2014年 11月

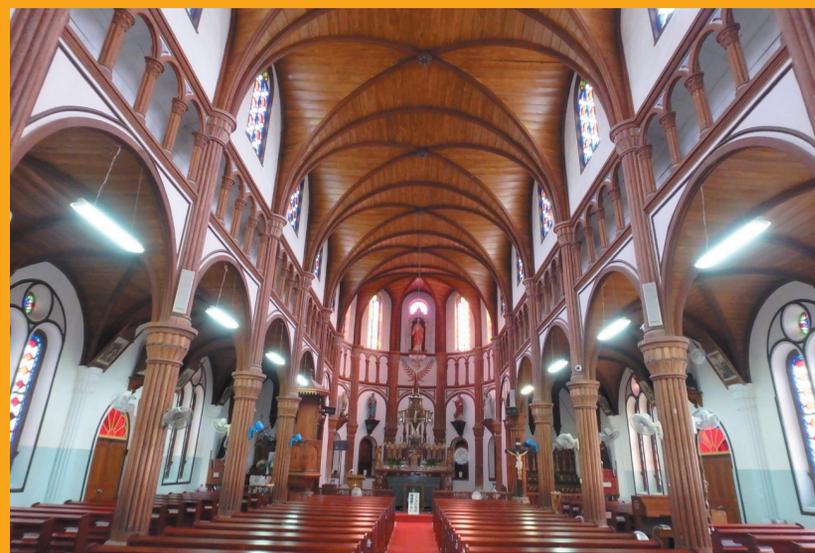
2014年 11月



～世界遺産登録を目指す、県内の構成資産の紹介 第6回「黒島天主堂」～

発行：長崎県教育委員会

会いにきてね♪
これからの
世界遺産に!



上の写真で、アーチが続いているのがわかりますね!!

黒島天主堂は、長崎市の大浦天主堂、平戸市の田平天主堂と並び、大きな教会です。特に、高い天井と奥行きが印象的です！「リヴ・ヴォールト天井」（別名：こうもり天井）の高さは約11mあります。また、半円形アーチを取り入れた技法もみられます。どこに使われているか、右の写真で見てください！



天井や扉の
木目も、
手描きです♪



左の写真では木の柱があるように見えますが、実は「しっくい」（壁の材料）で造った飾りなのです！



「クリアストリー」
（一番高い所にある光を取り入れる窓。）

「トリフォリウム」
（通路に見えるように造った飾り。）

「アーケード」
（柱の上にある連続したアーチ。）

いろいろなかたちのアーチがあるね♪

☆**外観**☆



天主堂の壁のレンガの数は、なんと約40万個！その中には、島内で手作りのレンガも含まれています。それぞれの材料や焼いた時の温度の違いから色とりどりのレンガの壁。そこには、何とか自分たちの手によって天主堂を造りあげようとした当時の人々の思いが込められています。



この丸窓から、教会の奥の祭壇に光を取り込んでいます。

☆**設計者の紹介**☆

マルマン神父
フランス出身。
1897年、黒島教会の司祭となり、黒島天主堂を設計しました。その内部の完成度は非常に高く、後世の日本の教会建築に大きな影響を与えました。



☆**特色**☆



天主堂の祭壇は有田焼のタイルを使用！これは、非常に珍しいことです♪



☆**お知らせ**☆

2014年9月17日、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が、昨年の「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」に続き、世界文化遺産の国内の推薦候補として選ばれました。どちらも世界遺産に登録されるといいですね！

☆「世界遺産ニュース」について☆
バックナンバーは、長崎県教育委員会の学芸文化課のホームページをご覧ください!!

案内は美龍でした♪

